

新型コロナウイルス感染症への対応

2020年度は、世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるい、パンデミックを引き起こしています。出入国の制限などによる人の流れの変化や、輸出入の制約など流通の変化、国内外において非常事態宣言による人と物の流れの制約や自粛の影響、消費動向の変化などが生じています。終息後も引き続いて、社会構造、消費動向が変化してしまう可能性が想起されます。

社内で徹底した感染防止策をとると共に、環境の変化に対応し、市場の要望に合った新たな価値を持つ製品を開発し、安定的に生産・供給していくことで、ハルナグループの持続的成長につなげていきたいと考えます。

主な取り組み

新型コロナウイルスの国内外の感染拡大状況を見据え、今年2月に役員、幹部社員を中心とした危機管理委員会を立ち上げ、情報収集・調査から始まり、様々な対応策を検討し、実施に移して参りました。

〈感染防止〉

■ 従業員への周知・徹底

検温の実施、出張・会議等の自粛、来場者への対応等をいち早く周知・徹底しています。

■ 時差出勤

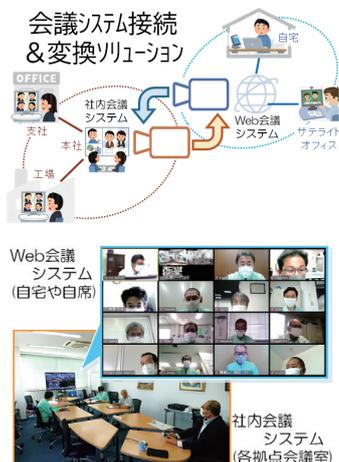
通勤時の感染リスクを減少させるため、時差出勤で出勤時間に柔軟性を持たせています。

■ 在宅勤務の推奨

社内システムに安全にアクセスするための新規システムを3月に導入し、全社展開しました。これにより、東京本社を中心に、本格的な在宅勤務を開始しました。

■ リモート会議推進

従来の国内外全拠点でのTV会議システムに、個人使用のZoom会議が参加できる新システムを導入し、在宅勤務を支援しています。



■ 発熱等が見られる従業員や、臨時休校に伴う休暇取得の援助

発熱、体調不良、家族の罹患の際の有給休暇の取扱いについて、配慮した制度を開始しました。小学校等の臨時休校に伴う保護者の休暇取得支援として、また、発熱等の風邪症状の見られる子の看護のために休む場合、給与を全額補償しています。

■ 人と人との接近防止

受付や事務所内においては、様々な遮蔽やレイアウトの見直しを行うことにより、人と人の間の感染リスクを低減しています。



■ マスクの在庫と従業員への配布

感染拡大に備え、社内に最低限の在庫を確保しつつ、必要に応じ、従業員に配布しています。



主な取り組み

〈安定生産〉

■ 安定生産のための情報収集

安定生産のために必要となる外部情報を収集し、必要な措置を検討しています。各種対策の実施による安定生産対応を推進しています。

■ 設備機械の保守、部品・消耗品の確保、修理対応
 随時情報収集を行い、必要な部品・消耗品をあらかじめ確保しています。設備機械の安定稼働対応を推進しています。

■ 協力工場様との連携強化

情報共有及び安定稼働のための協力対応を強化しています。

■ 物流体制強化

協力会社様との情報共有と、感染防止策の徹底を依頼することで、物流体制を強化しています。

■ お客様ニーズへの対応

“免疫力向上” “より健康的な” “巣ごもり消費” をキーワードに、今後の需要の変質に迅速に対応すべく新商品開発を加速しています。

〈新商品〉

免疫を高めることを訴求した商品や、健康に寄与した未来志向の商品を開発していきます。ウチ消費を手助けし、消費者を元気づける商品を開発していきます。

また、協力工場様と連携したサプライチェーン強化や、PET 容器にこだわらない需要創造型の商品開発を行います。

〈SNS 活用〉

SNS を活用したブランディングにつながるメッセージ発信や、顧客や消費者との共創プラットフォームによりビジネスを拡大しています。

〈海外拠点との連携〉

タイやスペインの拠点と連携し、JAPAN マーケットにはない新しいカテゴリー商品の創出をしていきます。

■ 海外拠点の状況

日本よりさらに厳しい制限下にあるタイ、スペインで、新しい価値を創出し、現地の方々を受け入れていただける商品を模索しています。

〈タイ〉

タイではアルコール飲料の規制が強く、非常事態宣言の発令により、酒類販売が禁止になっている中、ノンアルコール飲料に着目し、HBD スパークリングで、「モヒートフレーバー」を発売しました。

また、現地では食・薬・化粧品など様々な生活用品にハーブが使われており、日本で培ってきた茶飲料の技術も活かし、気軽に美味しく飲めるハーブドリンクを開発しています。

〈スペイン〉

欧州でも多大な経済への影響が出ている中、現状の顧客および新規の営業活動において、レストラン・ホテル等のサービス業は一旦停止しており、スーパーマーケット、コンビニに集中しています。欧州内の影響を最小限に食い止めるため、物流分野へも細かく粘り強い対応をしています。

また、嗜好品より一般的な商品需要がマスマーケットへ受け入れられているため、今後もそのような傾向を踏まえ、市場調査結果をもとに、固形物入り飲料等（アロエベラ、ナタデココなど）タイからの輸入を検討しています。

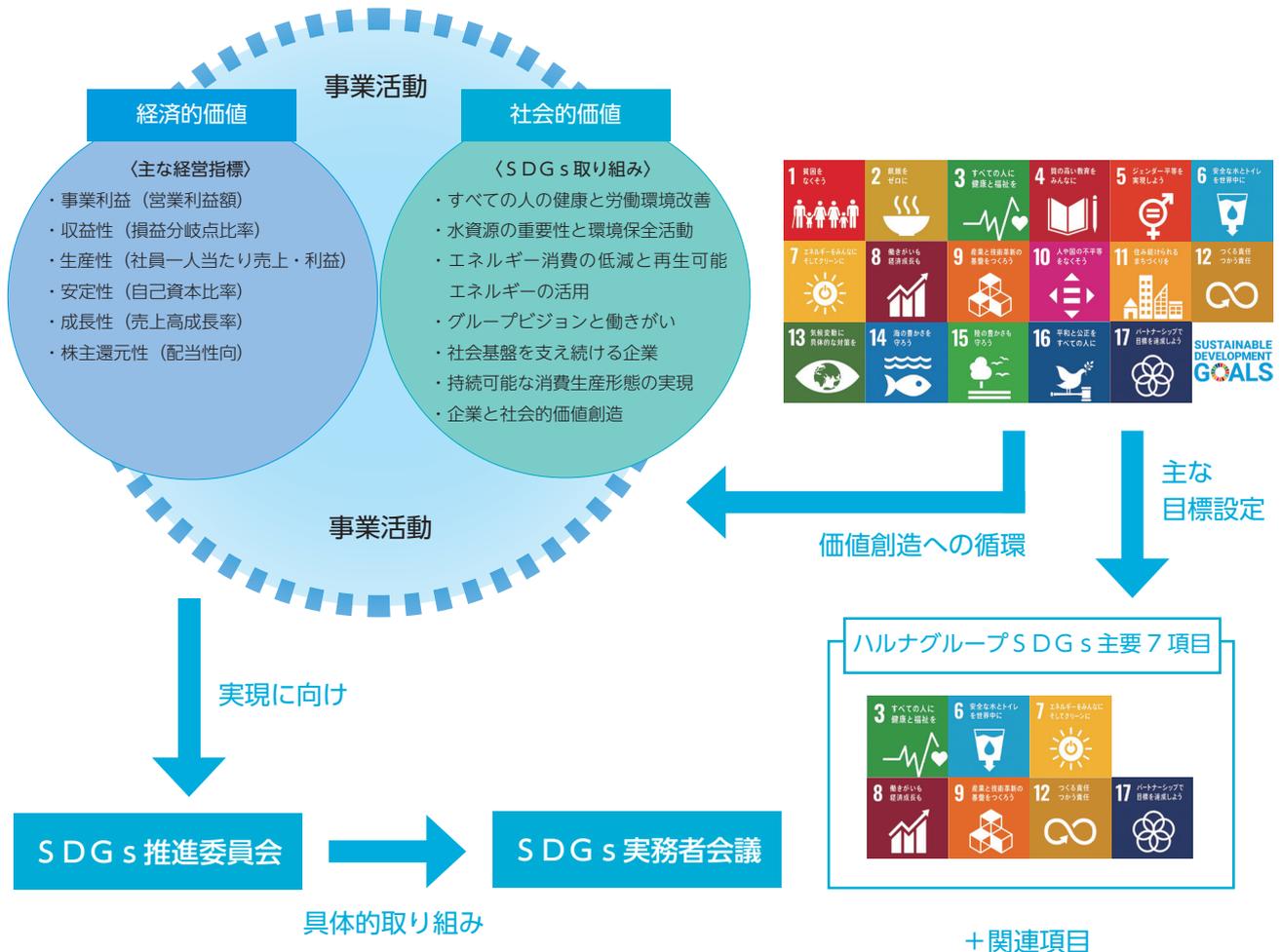
ハルナグループ SDGs 行動宣言

ハルナグループは、市場と顧客の変化に迅速に対応し、現在の顧客と新たな顧客に高品質な飲料製品の開発・製造・物流を通じて、顧客と消費者が感動し満足する価値の創出を継続していくことをグループの使命として活動してまいりました。私たちはこの活動をより強化するために、皆様の暮らしや社会全体を最適化した未来社会の実現を目指した経団連の企業行動憲章に賛同し、**Society 5.0* の実現を通じた SDGs の達成**に向けて取り組んでまいります。

* Society 5.0：日本が提唱する未来社会のコンセプト。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、新たな未来社会。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱。

SDGs 行動体系

Haruna Shared Value



SDGs の社内浸透



「ハルナグループ SDGs 行動宣言」を採択し、ポータルサイトや社内掲示板、職場内回覧等で周知しました。



SDGs 実務者会議において、各拠点・各部署から選出された委員が集まり、取り組み方法や目標を協議し、SDGs 推進委員会に上程しました。



年始に行われる社員総会にて、SDGs への取り組みの意義と、経営計画（ハルナビジョン）での位置づけを、CEO 自ら説明しました。



冬季に行われる社内のビジネススクール（ウインタースクール）にて、各担当分野の代表が取り組み内容や、数値目標についてグループディスカッションを行いました。

具体的な取り組み

取り組み内容	関連する SDGs のゴール	取り組み内容	関連する SDGs のゴール
【FSC® 認証紙への転換】 法律を守り、管理された森林から提供される紙原料を使い、認証工場で加工された商品の使用を開始しました。(26P 参照)		【ユニバーサル・デザイン】 ハルナグループから情報発信する様々な誌面に、ユニバーサル・デザインを取り入れています。(26P 参照)	
【寄付活動】 社会への貢献のため、国内、海外含めた視点で、毎年寄付活動を行っています。(26P 参照)		【献血活動】 赤十字血液センター様のご協力のもと、献血車による献血活動を 3 拠点で継続的に実施しています。2019 年度実績：118 人 (27P 参照)	
【エコキャップ活動】 ペットボトルのキャップで世界の子どもたちを病気から守るエコキャップ活動に継続的に参加しています。2019 年度実績：87,928 個 (ポリオワクチン換算 102.2 人分) (28P 参照)		【河川、用水路の清掃活動】 国内 3 拠点（高崎市、みなかみ町、海南市）において、環境保護活動として、毎年従業員が近隣河川、用水路、道路に出て、清掃活動を行っています。(28P 参照)	
【水資源の有効活用】 製造過程における使用水をリサイクルすることで、共有財産である水資源の使用量を削減しました。(30P 参照)		【エネルギー消費の低減と再生エネルギーの活用】 既存設備の省エネタイプへの積極的な更新や、各種照明の LED 化などにより、電力使用や燃料の削減をしました。(30P 参照)	
【障害者雇用の促進】 働く人それぞれにあわせた職場環境の整備と、業務の洗い出しによる調整で就業機会を創出する取り組みを行っています。2019 年度も、新たな雇用を生み出しました。		【災害時の飲料提供による被災地支援】 地域別のリスク分析と、災害想定に基づく配送シミュレーションを行い、物流体制の構築を目指しています。	
【フードロスの低減に向けた提案】 賞味期限の年月表記や設定期間の延長、工場より排出されるお茶の絞りかすの再生紙への利用等に取り組んでいます。		【開発途上国とのパートナーシップ】 諸外国のパートナー企業に、当グループの生産、品質管理ほか様々な技術の供与を行い、現地の生産性を高める取り組みを検討しています。	

2019 年度 社会貢献

■「FSC® 認証紙」を使用した紙袋や会社封筒を作成

ハルナグループは、環境保全・社会性の観点から、国際的な森林認証機関である『FSC(Forest Stewardship Council®：森林管理協議会)』の活動に賛同し、適正に管理された森林およびその他の管理された供給源からの原材料で生産された FSC® 認証紙を使用した紙袋や会社封筒を作成し、使用を開始いたしました。



■ユニバーサル・デザインとカラーセラピストの活用

メディア・ユニバーサル・デザインの知識を正しく理解したアドバイザーで、カラーセラピスト養成インストラクターという色彩の専門家が、SRR や会社概要案内を作成しております。障害の有無や年齢、性別、人種などにかかわらず、より多くの人々に見やすいようにデザインをしております。昨今では少子・高齢社会への新たな対応策として急速に広まり、さまざまな環境や製品に、この考え方が応用されております。その中でも「視覚情報」に特化したものがメディア・ユニバーサル・デザインです。



■国際 NGO 国境なき医師団への寄付

紛争や自然災害の被害者や、貧困などさまざまな理由で保健医療サービスを受けられない人びとなどへ、地球環境保全や次世代育成支援を目的に、さまざまな活動に寄付など経済的支援を行っています。

■UMAICHA 病院へ飲料を寄贈



新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大する中、治療にあたる医療従事者を労い、ヨーロッパの提携会社の UMAICHA では社会貢献活動の一環として、スペインバルセロナの病院へ飲料を寄贈いたしました。

■新型コロナウイルス感染拡大により群馬県へマスク寄贈

新型コロナウイルスの感染拡大でマスク不足に直面している医療施設や介護施設を支援するため、ハルナグループはマスク 2,000 枚を寄付いたしました。



■SDGs 私募債発行に伴う県民基金へ寄付

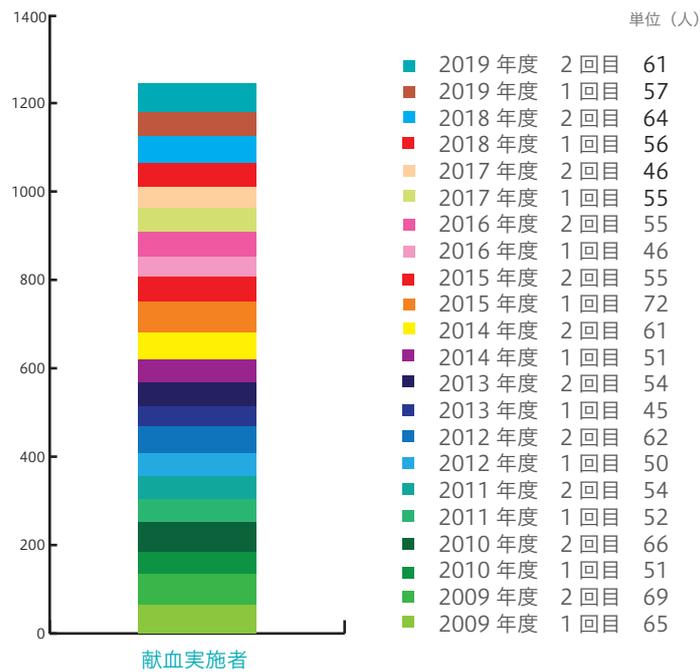
東和銀行様の SDGs 私募債発行に伴う「ぐんま 緑の県民基金」へ寄付をいたしました。これからもハルナグループは、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に貢献いたします。



■ 献血活動

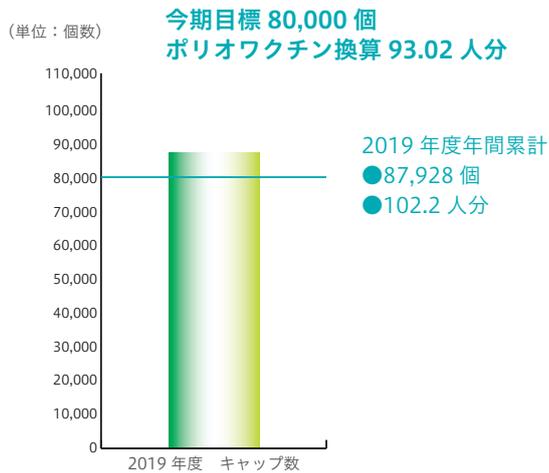
2009年度から群馬県赤十字血液センター様のご協力のもと、献血車による献血活動を開始し、2019年度までの累計で1,247人の献血を実施いたしました。今後も定期的に行っていきます。

■ 献血累計人数 1,247人



■エコキャップ推進活動

ペットボトルのキャップで、世界の子どもたちを病気から守るエコキャップ活動に参加しています。2019年度までの累計で854,659個のキャップをNPO法人エコキャップ推進協会に寄付いたしました（キャップ860個でポリオワクチン1人分。これまでの累計はポリオワクチン換算で、993.8人分）。



■地域清掃活動

3拠点（ハルナ・タニガワ・和歌山）では地域環境保護の一環として、工場横の河川・用水路や道路の清掃活動を行っています。



環境経営

ハルナグループでは、“環境”を経営上の重要なテーマの一つとしています。生産活動で使用する燃料や電力、および水資源の使用を節減するとともに、産業廃棄物の排出量削減及びリサイクル化、社会貢献活動を含めた環境経営の活動を積極的に進めております。

「ハルナグループ SDGs 行動宣言」を発表したことで、“環境”に配慮した取り組みを強化しています。現在、気候変動による影響が現れてきており、災害や環境問題が大きな問題になっております。

ハルナグループでは、地球温暖化に関わるエネルギー利用の改善を重要な課題と位置づけ、環境への負荷低減の考えからボイラー燃料を重油から LNG や都市ガスへ燃料転換してきました。2019 年より、和歌山プラントも灯油から LNG へ燃料転換し稼働開始、タニガワプラントは、マルサンアイ（株）様、東京ガス（株）様の 3 社による共同事業として取り組み、マルサンアイ（株）様がこのスキームで重油から LNG に転換され運用を開始しました。

また、継続してボイラーのより効率的な運転への改善、蒸気を使用する熱源からの放熱ロス削減対策、生産機器の運転効率の改善による電力使用量の削減、高効率な電力機器への更新などを行っております。

今後も環境に配慮した生産活動の推進に向け、社員一丸となって取り組んで参ります。

2019年度に行った主なエネルギー使用改善対策の取り組み

■ 「水の再利用」(ハルナプラント)

ハルナプラントにおいて、節水対策プロジェクトを開始しました。抽出液の冷却のために熱交換された井水を回収し、ボイラー供給水に再利用することで水使用量の削減と廃熱利用を進めました。



抽出液冷却水の回収と再利用
(ハルナプラント)

■ 「節水対策とボイラー燃料の削減」

製品切替時における抽出器の切換え湯洗工程を見直し短縮することで、純水と都市ガスの使用量の削減を進めました。



工程変更による節水と省エネ
(ハルナプラント)

■ 電力使用量の削減

既存のコンプレッサーの1台をインバーター機に更新することで、エア量に応じてコンプレッサーを調節し動かすことができ、エネルギーの無駄な可動を抑え電力使用量の削減を進めました。



コンプレッサーのインバーター化
(ハルナプラント)

工場内の照明をLED化し、電力使用量の削減を進めました。また、休憩室のエアコンを省エネタイプに更新し、電力使用量の削減も進めました。



工場のろ過室照明のLED化
(ハルナプラント)



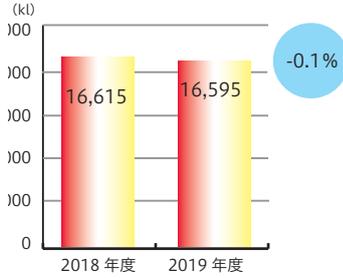
休憩室のエアコンを省エネタイプへ更新
(ハルナプラント)

環境会計 2019年度の実績

※ハルナプラント、タニガワプラント、和歌山プラントの合計値です。

インプット

エネルギー原油換算電力・LNG
都市ガス・灯油



アウトプット

二酸化炭素 (CO₂)

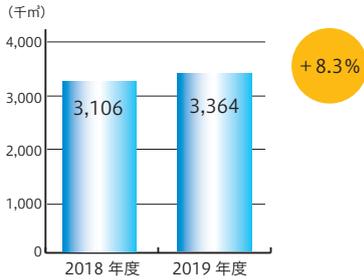


窒素酸化物 (NO_x)

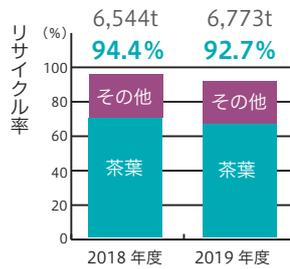


製造

水資源

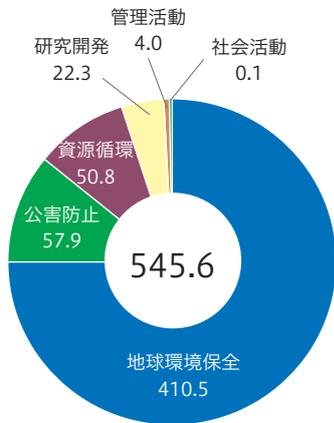


排出物

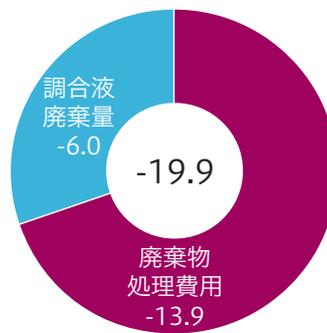


※その他には、汚泥、段ボール、可燃物・不燃物等が含まれます。

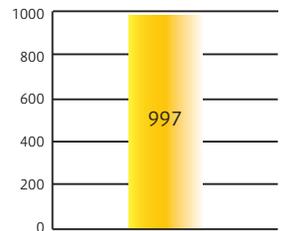
環境保全コスト (単位：百万円)



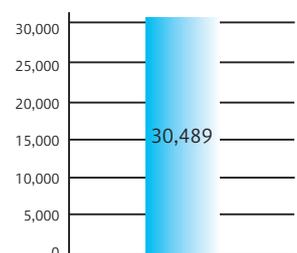
環境保全効果の金額換算 (単位：百万円)



NO_x 排出量 (単位：千円)



CO₂ 排出量 (単位：千円)



環境